

パリのヴァル・ド・グラスの医人達

大村 敏 郎

昨年一九八六年はフランス王ルイ十四世（一六三八～一七一五）が痔瘻の手術をうけて丁度三〇〇年に当る年であった。この手術をきっかけに外科と外科医が見直され、その地位が向上することになり、外科史上に大変意義のある出来事であった。

このルイ十四世の生涯をたどってみる時、その出生にまつわるエピソードのあるパリのヴァル・ド・グラス修道院を無視することは出来ない。ヴァル・ド・グラスが歴史の脚光をあびるのは先代のルイ十三世の王妃アンヌ・ドートリッシュ（一六〇一～一六六六）が祈禱所としてここを愛用したことに始まる。世継ぎに恵まれない王妃がここで祈願してやっと高齢初産（三七歳）で産みおとしたのがルイ十四世であった。ルイ十三世（一六〇一～一六四三）が早く世を去ったため五歳で国王になったルイ十四世が母の指示で、

出生への感謝をこめて礎石を置いて作ったのが美しいドームのある教会である。ヴァチカンのサン・ピエトロ寺院に模して作ったといわれる。

長生きしたルイ十四世がアンチモン論争・一般病院制度・痔瘻の手術・解熱剤カンキナ・男性産科医の採用など数々の医学史上の話題を残して世を去ったのは一七一五年であった。

その世紀の終りにはフランス革命が起り、医学も医療もすっかり改革されナポレオン（一七六九～一八二一）の時代に受継がれていく。その新しい変貌の一つが一七九五年から軍事病院として出発したヴァル・ド・グラスである。

ここで活躍し記念碑を残した医人達を取り上げてみたい。ナポレオンの殆どの戦役に従軍した軍医にドミニク・ジャン・ラレー（一七六六～一八四二）がいる。後に男爵の称号を与えられた。軍陣外科の偉大な功労者として、十六世紀のアンブローズ・パレ（一五一〇～一五九〇）と並んで、ヴァル・ド・グラスの博物館の中心的存在である。彼の最大の業績は救急車の開発であろう。まだ麻酔も滅菌も考慮されていない時代に積極的な手術を行うのはかなり勇気の

要ることだったが、平和な町の中とちがいが戦場における外傷という特殊な環境が外科に一層の順番を与え、それを有効に利用したのがラレーだった。ナポレオンの没落後も軍医の教育指導にあたった。ヴァル・ド・グラスの教会の前に立派なブロンズ像が立っている。

すぐれた医師が続出して、パリに臨床医学の華が咲くのは十九世紀の前半である。その中であって独特の活動と激しい性格で大いに議論をわかせた人物にフランソア・ジョゼフ・ビクトール・ブルーセ（一七七二～一八三八）がいる。すべての病気は炎症に基き、禁食を含む食養生と脱血が最もすぐれた治療だと信じ、ヒルによる吸血を多用したことで有名である。痛さえもこの同じ方法で対処出来るというのであったが、彼自身が直腸癌で死亡し、彼の学説も死滅したのであった。ブルーセはヴァル・ド・グラスの構内に墓地を得て静かに眠っている。

また薬学畑のジョゼフ・ペルティエ（一七八八～一八四二）とジョゼフ・ビアンエメ・カヴァントウ（一七九五～一八七七）がルイ十四世の時代にニコラ・ド・ブレニー（一六四二～一七二二）によって広められたカンキナからキニーネ

を抽出しているが、彼等の仕事はヴァル・ド・グラスで行われた。この二人の記念碑はすぐ近くのサン・ミシエル大通りの町角にある。

もう一人、ジャン・アントアヌ・ヴィユマン（一八二七～一八九二）は結核が感染症であることを一八六五年に証明している。ロベルト・コツホの菌発見よりも十七年前である。

十九世紀前半に新しい医学が生れ育つ培地となったのは病院を中心にした臨床の場であった。特にヴァル・ド・グラスのような軍事病院は資金や人材に恵まれ、研究にも活力があったようである。それに、医学部を卒業して医師になるより軍医になる方が費用が少く、しかも容易であったことも見逃せない。

わが国の幕末から明治のはじめ、オランダやドイツから医学の教師として来日した人々に軍医が多いことも興味あることである。

しかし時代と共に、軍医や軍事病院から他の医学部や市中病院・研究所へ研究の最先端が移っていったこともあって、ヴァル・ド・グラスの構内に立っているいくつかの像

は、ただ過去の栄光をとどめているにすぎないという寂しさを感ぜさせる。

なお、ドミニク・ラレーを日本に紹介したのは福沢諭吉訳の「洋兵明鑑」(一八六九)が最初のもので、「バロン・レルレ、兵卒の病に罹れるを憂いて次の議論を述べ。」として陣営編の中にある衛生論を紹介している。

(慶応義塾大学・医史学研究室)

医師トーマス・B・ダンの経歴 第二報

泉 彪之助

昨年の本学会後いくつかの問題が解明され、また現地調査の際遺族との連絡に成功したのでその成果を報告する。

父ロバート・ブロディー・ダンは、一八四四年スコットランドのエジンバラに出生、エジンバラ郊外で農業に従事していた。母マーガレット・マッキー(昨年抄録のマッケイは誤り)は一八四九年スコットランドのグラスゴーに出生。二人は一八八二年六月にエジンバラで結婚し、一八八三年ごろに合衆国へ移住した。最初カリフォルニア州ベンチューラ郡ニューホールに住んだが、まもなく隣接するカミューロスへ移転、トーマス・B・ダンはこのカミューロスで生まれた。カミューロスは現在のパイルー市郊外にあるが、ベンチューラ地域の早期の開拓地の一つである。

現地調査の際、トーマス・B・ダンの出生記録がベンチューラ郡記録官事務所にないことを再確認したが、このこ